



▲昭和30年ごろの杉原町

◀現在の都橋



この付近は、二荒山神社の社地から続く林に杉の木が多かったことから「杉原町」と呼ばれるようになったといわれています。江戸時代は古着屋・木綿屋・桶屋などが軒を並べた町人町で、池上町との境の池上橋（現在の都橋）は城下随一の名橋といわれていました。

杉原町は、かつてはともも住民が多く、私が通った昭和30年代の昭和小学校は1クラス50人以上で、同級生は300人以上いました。夏の体育の授業では、八幡山

お使いの帰り道には、近所の方が声を掛けてくれたり、あめをくれたりするなど、住民同士が自然と会話する、人情味ある時代だったことを懐かしく思い出します。

また、杉原町のみこしと山車は戦災で焼失していたので、お祭りの時には、子どもながらに、他の町のみこしをうらやましく見ていました。

公園のプールで泳いだことを思い出します。そんな杉原町の子どもの遊び場は、二荒山神社の裏参道を上がったところにあった広場や旧市役所前の池でした。裏参道の上の広場ではどんど焼きが行われ、子どもたちは燃え残ったしめ飾りの小判型の金属を拾っておもちゃにしていました。



すぎはらちよう  
**杉原町**  
現在の馬場通り1丁目・本町の一部辺り  
古いまちの呼び名と  
こぼれ話を紹介します



山本2丁目  
小川 擁子さん

# はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

夢があったから頑張れた  
ヒップホップダンスで世界一

泉が丘中学校 田崎 拓也さん



▲Izumi Dance Company Jr (田崎さんは右下)

夏休みなどにはメンバー1日6時間以上の練習を重ねました。それでも苦しい、辛いと思っただけでなく、辛いと言いたくありません。「ダンスを始めた頃に描いた夢が世界一になることでした。厳しい練習も、

昨年11月に、アメリカのロサンゼルスで開催された、世界で3本の指に入る権威のあるダンスコンテストといわれる「VIBE」のジュニア部門で、田崎拓也さんが所属する日本代表ダンスユニット「Izumi Dance Company Jr」が、優勝しました。田崎さんは昨年夏に国内オーディションに合格し、小学生から高校生まで27人が参加するダンスユニットの一員になりました。

今後の目標は「まずは、今年のVIBEで2連覇することです」と笑顔の田崎さん。思いは、次の夢へ向けて走り出しています。

田崎さんがダンスを始めたのは小学2年生の時。お母さんと一緒に行ったアイティストEXILEのライブを見て「自分もダンスをやってみよう」と思ったことがきっかけでした。「毎日のようにスタジオに通い、踊っていました。頑張っていたというより楽しくて仕方なかったという感じでした」と当時を振り返ります。

